私たちの活動は、皆様の応援にて成り立っています！

子ども達が集まる場所をずっと無料で提供したい

私たちの活動にご支援をお願いします

お振込または寄附ページからカード支払いも可能です。
＊ご希望があれば、ホームページにリンクを貼らせていただきます。

寄付ページ

● 法人・企業　¥10,000～

● 個人　¥3,000～

お振込先：ゆうちょ銀行　口座番号　00140-1-37342　NPO法人青梅こども未来

ご寄附・ご支援いただいた企業・団体のみなさま

ともに生き、ともに育つ おうめようちえん

黒澤山 聞修院

内田接骨院 ☎32-8102

社会福祉法人 成木保育園

JA西東京

瑞穂 のぞみこども園

仙桃山 宗建寺

がぷがぷ 山のようちえん

福島接骨院

国際ソロプチミスト青梅 SOROPTIMIST Best for Women

健幸工房 シムラ
健やかに住まい、幸せに暮らす。

YUSAKA

＼ありがとうございます／

イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン／Amazon「みんなで応援」プログラム／
青梅市立第一小学校 PTA／ひとしずく株式会社／ピーアールコンビナート株式会社／
青梅市新町5・6丁目自治会／街プレ西多摩版／ OMEGOCOTI ／個人の方々 85 名

発行 2025 年 3 月

特定非営利活動法人青梅こども未来　kodomomirai-ome.com/

【この街で子育てしたい！ずっと暮らしたいと思える街づくり】をミッションに、「ヒト・コト・モノ」との出会いを大切にして「会えて・来て・参加してよかった」と思える居場所を作っています

〒198-0024 東京都青梅市新町5ー32ー15シムラビル1階　0428-78-0762　info@kodomomirai-ome.com

2024年度日本財団助成 事業

みらくる

子ども第三の居場所

31か月の記録 2022年6月～2024年12月

【活動報告書】

特定非営利活動法人 青梅こども未来

MESSAGE　メッセージ

特定非営利活動法人青梅こども未来
代表理事　　白井　順子

令和３年９月、これまで約 10 年お世話になった東青梅の地から、縁あって新町に事務所を移転しました。新しい事務所は木のぬくもりを感じられるとても素敵な空間で、そこをスタッフのアイディアと専門家の知恵を借りてリノベーションし、より一層素敵な空間が出来上がりました。
この場所で私たちの念願だった「子ども達の居場所」を実現するために日本財団「子ども第三の居場所事業」にエントリーし、令和４年６月「みらくる」を開設して私たちの新たな挑戦が始まりました。
子ども達が自分らしくいられる場所ってどんなところなんだろうと、子ども達の声を聴き、子ども達と一緒に「みらくる」をつくっています。
今後も皆さまのご協力をいただきながら、子どもを真ん中に、子ども達の「生き抜く力」を育むこの居場所を存続させていきます。

令和7(2025)年 3月

名称　特定非営利活動法人青梅こども未来
設立　2002年
スタッフ数　54名（常勤 4名・非常勤 50名）／ボランティア 13名
代表理事　白井　順子

- 1995年「青梅こども未来連絡会」を設立
- 2002年「特定非営利活動法人青梅こども未来」を設立
- 2022年 6月23日『子ども第三の居場所みらくる』を開所

CONTENTS　もくじ

メッセージ・・・・・・・・・・・・・・・ 1p
みらくるが目指していること・・・・　2p
みらくるってどんなところ？・・・・・ 3-4p
31ヶ月の記録・・・・・・・・・・・・ 5-6p
みらくるエピソード・・・・・・・・・ 7p
ボランティアスタッフの声・・・・・・ 8p
みらくるスタッフの声・・・・・・・・ 9-10p
みらくる語録・・・・・・・・・・・・ 11-12p
座談会インタビュー・・・・・・・・・ 13-14p
寄附について・・・・・・・・・・・・ 15p

「子ども第三の居場所みらくる」

【所 在 地】青梅市新町５丁目 32－15 シムラビル１階

【開催日時と対象】

●火曜日・木曜日・土曜日 14：00 ～ 19：00
小学生～高校生

●第４木曜日 10：00 ～ 13：00
乳幼児とその保護者～高齢者

【スタッフ】 常勤１名・非常勤 16 名・ボランティア 10 名

【主　　催】特定非営利活動法人青梅こども未来

ありのままでいいよ！

家でもなくて、学校でもない、
行っても行かなくてもいい、
なんでもいい居場所。
どこでもない、
でもきっと３番目の居場所。
思いだしたら来てね。
いつでも、だれでも！！

子ども第三の居場所 みらくるが目指していること

成長や変化をしながらも、子どもたちが自分らしくいられる場所、
丸ごと受け止められる場所であり、
子どもと大人がつながって育ち合う場を目指しています。

1、子どもが様々な人との関わりを持ち社会の一員として参加できることを目指し、赤ちゃんから高齢者まで、地域の方々が集える場をつくる。

2、みんなが、みんなの子どもを育てる社会を目指す。

3、関係機関との連携を取りながら継続的な支援ができる拠点をつくる。

4、生き抜く力を育む体験の場の提供をする。

みらくるってどんなところ？

こんなところ！

子どもたちが自分でやりたいことを選びます。
運営スタッフは、地域や拠点の強みを活かした独自の支援、体験活動、プログラム、イベントも開催します。

【みらくるが大事にしていること】

「ありのままでいいよ！」は、どうすれば子どもたちに伝わるだろうか、とスタッフは日々子ども達と向き合い続ける中で、間違っても、失敗しても、悪いことをしても、認めてほしいのだと気づきました。
そうして生まれたのが、指示的な言葉かけはしない、禁止の表現は使わない、注意ではなく提案をする、という大人側の対応です。
今は、「指示しない、注意しない、禁止しない」で、「３ない」がみらくる運営の柱となっています。

日常の写真～いろいろなあそびが生まれています

木の素材で心地よい室内空間♪

ごっこあそび

くまさんがお客様のレストランでごっこあそび！

レストラン

絵本・読書・漫画

人気のカプラ！
色々なあそび方・・・

学習・宿題

どんな活動やイベントをしているの？

［地域の人とつながる活動］

・地域の方が出入りできる時間があります。
・毎回テーマを決めて楽しんでいます。

大人の手仕事

折り紙

［生活体験］

市民センターの調理実習室で、おやつを作って食べました。

キャンディタイム前の準備でテーブルを拭きます

［外遊び］

第五運動広場で
モルックや鬼ごっこなど
外遊びもします

［サイエンストイ］

科学の不思議を
知る・あそぶ

［乳幼児の時間］

初めてのお友達

1日の流れ

14：00　開館
子どもは出入り自由。
利用票に名前を記入。
※来館と退館時はスタッフに伝える。
◎キャンディタイム２回程
19：00 閉館

「子ども第三の居場所」とは

「子ども第三の居場所」はすべての子どもたちが将来の自立に向けて生き抜く力を育むことを目的として、日本財団が中心となって 2016 年より全国に開設しています。「子ども第三の居場所」では、特にひとり親世帯や親の共働きによる孤立や孤食、発達の特性による学習や生活上の困難、経済的理由による機会の喪失など、各々のおかれている状況により困難に直面している子どもたちを対象に放課後の居場所を提供し、食事、学習習慣・生活習慣の定着、体験機会を提供しています。現在全国 42 都道府県に 248 ヶ所設置されています。（2025 年 2 月末時点）
https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/child-third-place

日々のブログは
こちらにアップ！

ブログ

31ヶ月の記録

オープニング

2022年6月23日オープニング
「賢者の塔」ゲームを体験しました。

MESH™

2022年12月
ソニーのプログラミング体験

webページOPEN

2023年6月
「みらくる」の
ホームページが完成！

プログラミング講座

2023年2月プログラミング

獅子舞が来た!

みんなではっぴを着て
ただじゅんさんの獅子舞を
観ました。日本ならではの
お正月のお楽しみ。
2023年1月

2022

6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月

2023

すず虫

みんなで飼っているすず虫。
餌も子ども達があげています。

のれん

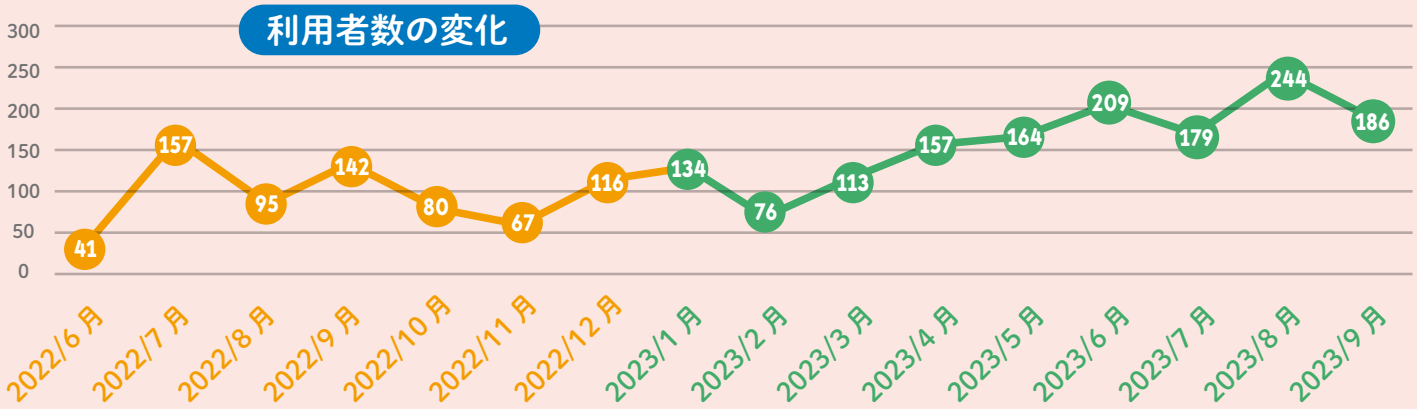
「みらくる」のれんも年を経るごとに少しづつ変化が・・・
2022年→2023年

おもちゃづくり

2023年4月
しゃぼん玉バスで登場！
TOYクリエイター
野出正和さん。
ころころドミノを
つくってあそびました。

真剣！
夢中！
ハサミの使い方ワークショップの様子です。

利用者数の変化



モルック

北欧で人気の外遊び「モルック」に挑戦！ルールを知ればどんどんはまる面白さ。

自転車おきば

自転車であそびに来る子が増えました。
土曜日は満杯になります。

アルファ米試食会

2024 年 3 月　防災用として活躍するアルファ米。
実際につくって試食してみました。

球はこびリレー

2024 年あつい夏の日。
室内ではいろんなあそびが生まれています。
こちらは球はこびリレー

2024

10月 11月 12月 1 月 2 月 3 月 4 月 5 月 6 月 7 月 8 月 9 月 10月 11月 12月

事例共有会

2023 年 11 月
日本財団子ども第三の居場所事業共有会（オンライン）に登壇者として推薦され、「みらくる」と広報メインにプレゼンさせていただきました

青梅を学ぶ

2024 年 1 月「青梅ってどんなまち？」をテーマに、青梅に詳しい村野公一さんにお話しに来ていただきました。

関係者会議

2024 年 2 月
「みらくる」の報告と地域の連携・情報共有を目指して関係者会議を開いています。これは開設後、三回目の様子です。

地域の学校、関連 NPO、民生児童委員、自治会、ボランティア、行政等の皆様です。

まんが投票

2024 年 10 月
子ども達と
まんが投票で
購入する
まんがを
決めました。

ヘクセンハウス

2024 年 12 月
ヘクセンハウス（お菓子の家）をいただいたので、みんなで食べました。

少しずつ利用者は増え、2024 年は
200 名を超える月が増えてきましました。

31ヶ月の開設日数
381 日

みらくるエピソード

≪なまえ≫

みらくるでは、「先生」はいません。スタッフもボランティアも名札をしています。子どもたちには○○さんと呼んでもらっています。

Aさんは、「先生」と呼んできました。「ここには先生いないよ」と伝えると「じゃおばさん」「おばさんだけど名前があるんだよ」と名札を見せました。

当初は、名前を覚えられずにいましたが、一か月もするとスタッフの名前をしっかりと覚えることが出来ました。そのうちにしらないNPOスタッフがみらい館を訪れると本人から「誰？名前は？」と聞くようになりました。名前を覚えるようになってから色々な面で積極的に人と関わるようになりました。

「先生」という呼称ではなく、しっかり個を意識した名前で繋がることの大切さを感じています。

≪ぬいぐるみ≫

みらくるには、ぬいぐるみがあります。かなりの高級なぬいぐるみもあります。子どもたちは、その肌触りのよいぬいぐるみでままごとをしたり、ごっこ遊びをしたり落ち着いた遊びをしている姿がありました。

しかし、子どもの気持ちも色々な状況があります。ある日、子どもたちは、落ち着かない様子で遊んでいました。基本、みらくるは、「何をしてもよい」居場所です。危険がない限りは見守りをしています。そんな中、ぬいぐるみが破損していました。

スタッフで、しっかりと話し合いました。
まずは、何かにあたらずにいられない子どもの気持ちに寄り添うことを確認し合いました。
そして、身体に危険が及ぶ時には、「何が危険なのか」をきちんと伝えることを話し合いました。

≪キャンディタイム≫

みらくるでは、「キャンディタイム」というおやつの時間があります。
飴、クッキーなど、寄附でいただいたものやみらくるで購入したものをおやつとして子どもたちに提供しています。

Bさんは、「こんにちは。」の前に「キャンディタイム終わってない？」と入ってくる子どもでした。楽しみにしてくれていることが伝わります。家庭的に見守りが必要なことをスタッフ間では感じている子どもです。他の行事等に誘っても「これって何円？」「お金かかるの？」と聞いてくることが多くありました。

『毎回必ずもらえるということ』を認識してからは「キャンディタイム終わってない？」の言葉はなくなりました。
Bさんが、みらくるは安心・安全な場であり、守られていることを感じてくれていることを嬉しく思っています。

他にも食の安定が必要と感じる案件がありました。
そして、土曜日の他、学校休業日は、キャンディタイムに加えて、「おにぎりタイム」を作ることにしました。おにぎりの他、体験の一環として非常用の缶パンやアルファ米を提供することもあります。

（文責：鶴岡則子）

ボランティアスタッフ

（1）名前（2）得意技
（3）あなたにとって「みらくる」って？？

子どもたちが似顔絵を描きました。

（1）S
（2）人の名前をすぐ覚えられる
（3）暇な時にふらっと気軽に立ち寄れる場所になっているとこ

（1）A
（2）5連10連けん玉
写真撮影から加工まで　ほか
（3）いろんなボードゲームができて、子ども達と明るく楽しく面白く笑顔で接する事で、自分自身のコミュニケーションスキルアップにもなる。

（1）M
（2）折り紙、切り紙
（3）楽しい場所です。様々な出会いがあり、折り紙を教える時もあります。

（1）Y
（2）特になしと言いながら
～けん玉、お手玉、皿回し！
（3）子ども達にゲームを教えてもらう場

（1）Y
（2）けん玉
（3）人生の楽しみ

（1）M
（2）絵を描くことが得意。
（3）多世代交流もでき、得意な事を活かせる場です。子ども達の安心できる一つの拠り所としても素敵なところだと思います。

（1）D
（2）バトミントン
（3）大人になってからも変わらず子どもの頃のように楽しめる大切な居場所です（子どもの頃に未来の事業にかかわっていた方）

（1）Y
（2）特技？ないです！
実はゆずスイーツ！
（3）オアシスです

（1）F
（2）運動
（3）いろんな世代の人と交流できる場所

（1）A
（2）遊ぶこと
（3）お子さん達と、ただただ一緒に遊べて楽しい場所です。

（1）K
（2）みんなと全力でボードゲームを遊ぶこと
（3）【まとめ】繋がりが生まれる場所（補足：青梅市には昨年引っ越してきました。知り合いもいない状況の中、ボランティアとしてみらくるに関わり始めました。まだ数ヶ月ながら、子どもたちやスタッフの方々、他のボランティアの方々との繋がりが生まれています。

みらくる スタッフの声

スタッフ紹介

当法人スタッフとボランティアで運営され、
小学生から高校生まで、誰でも利用できます。
未就学児親子の利用できる時間も設けています。
運営スタッフは、さまざまな資格・経歴を持った
スタッフが３～４名程度、常駐しています。

【資格・経歴】
保育士・教員免許保持者・教育＆子育て経験者
公認心理師・社会福祉士等

（1）「みらくる」についてどの程度満足していますか？
★いくつ？その理由もお書きください。

・★★★★★子どもが楽しそうに過ごしているから。
・★★★★いろいろな年代の子どもたちにとって自分らしくいられる場所になっているなと思います。たまに怪我をしなければいいなという場面があるので、難しいです。
・★★★★試行錯誤の３年間であったが、子どもも大人も共に考え場をどのようにしたいかを話し合うことが出来た。また、多くの多種多様な大人たちが子どもの事を一緒に考えられる場となったことが良かった。
・★★★★みらくるの中に入り、子どもたちの賑やかな声、明るい表情を見るとわたしもうれしく、癒されています。
・★★居場所が必要な子どもの必要な場所になっていることは実感します。ただし、自分自身の「何をしてもいい場所」という理解が追いついていきません。

（2）活動の中であなたが気をつけていること

・声かけなどこどもの気持ちに寄り添っているか。
・一緒に考えること。指示、注意、禁止しないこと
・３つの心得を忘れずに！ということ。何かをしてあげるという対応でなく、一緒に楽しみたい♡という気持ちで仕事すること。
・一人の子どもに集中せず、できるだけ周りを見渡すようにしています。
・子どもと目線を同じにして、話を聴きたいと努力しています。

（3）活動を通してあなた自身の子ども達への思いの変化

・子どもを大切に思う気持ちが増してきた。
・どの子もかけがいのない存在で可愛いと思える事。
・子どもには、正しい事を伝えるのが大人の役目と考えていました。研修などを通して、どうすれば良いのかを子どもと一緒に考えていくことが大事なんだとわかりました。
・最初はしからない、注意しないなど、いろいろ気を使いました。強情な子もいますが、徐々に付き合い方を考え、自分も学べるようになってきたと思います。
・特に変化はありません。子どもは一人一人違って、みんなそれぞれいいところがあるじゃんという気持ちは常に持っています。
・子ども自身の力の大きさを実感している。すべての子どもたちは、成長する力を持っている。そしてそれをサポートする大人やきっかけを作ってくれる大人の存在も大切なのだということ、子どもの力を信じることが大切と再認識しました。

（4）活動を通してあなた自身に変化がありましたか？

・多世代の場での子どもの姿を見る事が出来て、色々な大人と関わることの必要性を大いに感じました。子どもとの関わりだけではなく、ボランティア、そしてどんな居場所にするのかを模索しながらみんなで話し合えることは、とても大切であることも再確認しました。
・行動の背景を考えるようになった。
・私自身が今まで知らなかった（想像を超えた）環境で生きて、育っている子どもたちのたくましさに、感動しています。
・子どもによって関わるときの距離感を意識するようになった。
・以前より、素直に子どもたちから学んでいる自分がいる。

（5）気になってること、やってみたいこと、やめたほうがいいことなど

・今後も、子どもたちのために続いていって欲しい。
・みらい館内で簡単な料理、お菓子作り・学習支援・きになる子どもについて、横のネットワークをもっとつなげていきたい。
・続けて欲しい
・その都度都度、今必要な事、大切なことと思えることしっかりと話し合えるみらくるでありたいと思います。

・スタッフの方が、毎月のイベントに追われているように感じることがあります。利用する顔ぶれもわかっていたところで、子どもたちに「したいこと」アンケートを実施したことは効果的だと思います。子どものアンケート結果を反映して、イベントの内容や回数が見直されるといいと思います。

みらくる 語録

記憶に残った言葉をスタッフから集めました。
大人の側からの指示、注意、禁止はやめよう、という活動のポリシーの中から生まれた語録です。

「はじめて見るね、なまえは?」
（みらくるスタッフではない青梅こども未来の大人に）

「ここは何ができるんだろうな？」
「まぁ遊べたな。」
（初めて来館の男子３人組の入館時と退館時のつぶやき：滞在時間 15 分）

「みらくるって、何歳まで利用できるの？高校生になってもつかえる？」
（利用票の記入しながら、小学生から）

「ここは、治安が悪いですね。」
（初利用の不登校の中学生にみらくるの感想を聴いたときに）

「みらくるは良い。怒られないから。」「僕らの話しをちゃんと聞いてくれるし。」
（キャンディータイムで一緒におやつ食べながら）

「私ね、声優になりたいの。」
「顔出さなくても良いから」
（タブレットを観ながらひとしきりダンスをした後のひと休み時間）

「お前も一緒にいたから連帯責任だ！」
「どうして連帯責任！？おかしいと思う！僕はやってないのに！」
（一緒に遊んでいた友達がジュースをこぼして、連帯責任だと友達に言われ文句をいいながら雑巾掛けしていた）

「くそばばあ」
（うろうろしながら物を落としたり人にぶつかったりしていた。）

「このあんこはおいしくない」
（高級あんこの味を知った後のふつうのどら焼きを食べた感想）

「あんたなんかに言われたくないよ！あんたは人類１キモイから！」
「あ！人類２位だ！」
（その子の行動に対してスタッフがお礼をいったら）

みらくる 語録

「妹弟なんて
めんどくさい」

（弟妹がいる子のある日の
ひとりごと）

「3月に引越しするの！
今よりみらくるが
近くなるよ！」

（一緒にボードゲームで
遊んでいるときの会話。）

「〇〇さんとは今日話ししない」
「あ！話しちゃった！」

（これ以上好きに
ならないためだそうで…。）

「なん個取っていいですか？」
（キャンディータイムでのおやつの数について質問。）
「２個かなぁ～３個かなぁ～」
「3個にしようっと」

（何個と決めずに、回りの状況を見て
子ども自身に個数を判断してもらっている）

「死ね！」

（自分の思い通りにならなかった時の
顔面に力を入れてこぼれた言葉）

「〇〇さんも、よく
がんばったとおもうよ」
「次、もっと頑張って。
コツを教えてあげるから。」

（スタッフにデジタルゲームを
伝授中の子どもから）

「今回はまずまずの
できでした」
「でも、僕なんて
まだまだですよ」

（冬休み明けのテストが済んで、
アブストラクゲームをしているとき）

「師匠をこえたぁ～!!!」

（けん玉上手なボランティアさん
よりも上手にけん玉ができた
小学生の叫び）

「〇〇さん、紫の
アイシャドー似合ってるよ」

（お洒落に関心があり、口紅やマニキュア
を時々付けたりしている小学生が
スタッフを見て）

「もう一つもらっても
良いですか？」
「腹、まだへってます。」

（おにぎりめあてに来館の中学生）

「大人げないよ」

（ボードゲームで子ども
相手に手を抜かず勝利
したスタッフに）

「ここは無料ですか？」
初利用の子が、入館前に
確認した言葉。
「そうですよ。」と言うと
「良かった！」
と笑顔になった。

特別座談会

「地域をつなぐ子ども第三の居場所を目指して」

学校・企業・地域と一緒に成長を見守る

出席者

青梅市子育て応援課長　濱野 剛
青梅市立新町小学校長　塚田 直樹 校長
健幸工房シムラ 代表取締役 志村 將成

ファシリテーター
NPO 法人こども未来　鶴岡 則子、栗原 久美子

みらくるの印象

濱野：青梅市では令和７年度に向けて「青梅市こども計画」を策定しています。策定にあたっては保護者だけではなく、小・中・高生、39 歳までの若者の意見もよく聞くようにしました。こども基本法では、子どもを何歳までという区切りはなく「成長の過程にある者すべて」と規定しています。web でのアンケートも実施して 1,000 人ほどの回答を得ました。それに加えて、みらくるでも子どもの意見を直接聞く機会を設けました。
例えば「どんなことがあったらいい？」と聞くと「学校内の友達と遊ぶだけではなく、他の学校の子と遊んでみたい！」、「いろんな人と交流したい！」などの意見があがり、それをみらくるで実現できるのでは、と感じました。
子どもたちはみんなスタッフに心を開いている様子で、みらくるは青梅市の中でも特別な場所であるとの印象を受けました。私はこのテイストを他の場所でも展開できたらいいな、と考えています。

塚田：最近聞くようになった、子ども第３の居場所。実際に学校近くにできて、初めはここで子どもを集めて何かをやるの？　狭いんじゃないかな、と思ったけど、実際入ってみると空間が上手に使われていて、場所は広さじゃないんだなと知りました。
コロナ禍で、大事な成長の時期に人との関わりが減った子どもたちが、今その機会を取り戻そうとしている。ここでは学校で見せない顔を見せてくれるようで、それが子どもにとってプラスになっていると思います。
ここに来ているある児童は、学校でいつも自分から挨拶してくれます。自分から声をかけること、アクションすることに抵抗がない。知らないうちに人との関わり方を学べている。人との関わりをもてるすごく重要な場所だと思います。

みらくる：ここでは大人を先生ではなく名前で呼びます。大人一般ではなく、１対１で関わりを持って、この「場」に来てもらいたい思いでやっています。思いが伝わったようで嬉しいです。

志村：ここみらくるからできること、というのがどの程度影響力があるのかな、と思いました。新町小界隈の子は来るだろうと予想していましたが、外から見ていると、車での送り迎えや自転車も年々増えている。場所を有効に使ってもらって（建物を提供した側として）間接的だけど嬉しい。
地域の学校の生徒さんが職業体験の授業で 2、３日うちの社で経験してもらうことがある。その時コミュニケーションとるのが大変でした。話しかけても返ってこない、やってあげてるんだけど響いていないと感じました。子どもにとっては、一方的な大人の意見は聞きたくないだろうし、子ども同士でも勝手がうまくいかず、嫌な思いをすることもあるでしょう。でもここでは、大人がうるさく言わずに見守ってくれる、という環境が素晴らしいです。この場所を利用してうまく発展してくれればいいな、と願っています。

みらくる：日本財団の他の事例では、建物を建てるところから助成するケースもあるので、私たちはこんな素敵な建物をどう活かすか？というところからスタートしました。運営に関しては、これまでの子育て支援センターなど他の拠点の運営や、青梅こども未来で活動した経験や知恵の結晶です。

この空間の特長で、壁ではなく緩やかに区切られている、というのが子どもたちにとってはミステリアスでいいようで、私たちでは思いつかないような使い方とか、遊びの仕方をしてくれています。この建物の作りが子どもの発想や動きとバッチリでした。
この３年間、研修で「こういう時どうしたらいいのか」という事例をたくさん教わりました。日本全国の拠点とオンラインでつながって話ができるので、私たちも「これでいいのかな」から３年間かけて「これでいいんだね」となってきました。

ここでは指示しない・注意しない・禁止しないを心がけて子どもたちと向き合っています。実際殴り合いのケンカもあったのだけど、「やめなさい！」と言ったり、間に割って入り制止したりせず、「ケンカをするのはここじゃないよね？」と声掛けして一度考えてもらいます。それでも止まらないと「ここはケンカする場所じゃないけど、どこか別のところに行く？」と話をしていると、そのうちにクールダウンしてくる。この殴り合いのケンカをした子どうしは、次の時ちゃんと遊んでました。
私たち大人は、揚げ足を取るような言い方や、どうしてそんなことをするの？と問い詰めるようなことをしないよう気をつけていますが、「三ない」を言ってしまう時もあります。大人側で反省をして、リフレイミングと言って言い換えをしたり、その場にいたボランティアさんが柔らかく対応してくれたりしています。

続けたい、地域の信頼とつながり

濱野：私は、地域で一生懸命やっている人たちの活動を支援していきたいと考えています。子育てガイドも※子梅連（子ども関連NPO 団体連絡協議会）さんと連携して刷新。子ども食堂や NPO 団体の紹介にもページを割きました。ネットワークを構築して市全体でいかに繋げていけるか、が課題だと思います。活動する人を応援する立場で、子どもたちが楽しく成長していけて、大人たちも楽しく子育てできる町を作りたいと思います。
塚田：市民や地域活動が HUB 組織となり行政と連携できれば、揺るがないと思います。市民、子どもたちの信用を作るのはすごく大変。未来のまちづくりのきっかけとして、子どもたちの信用を作っていきたいですね。
濱野：青梅市で計画している市民ホールについては、市民参加のワークショップを何度も開催しました。高校生たちからもいろんな意見をもらいました。ここで上がった要望を一つでも実現できないか？と検討しています。
他にも、市は青少年リーダー研修を開催していますが、半年ぐらいかけてリーダーとして動ける人材を育成した後の、活躍の場があまりない。地域で力を出せる子どもを育てる、そして活躍できる場をつくることが必要だと考えています。
みらくる：みらくるに来ると、子どもの居場所だけれどいろんな世代の人がいる。それを見て「高校生になっても来ていいの？」「卒業したら来ちゃダメなの？」「ここで働けるの？」とその先を考えて発想を広げることができる。「みんなの居場所」というふうになっていくのが良いのではないかな、と思っています。
志村：「みらくる」や「子梅連」の活動が地域に根付き、多くの方に認知されてきたことを実感しています。今後さらに広めていくためには、行政や企業との連携が重要だと考えます。市の広報誌や冊子に企業の活動が紹介されることで、市民の安心感と理解につながり、より幅広い活動が可能になるでしょう。
また、こうした素晴らしい取り組みを長く継続していくためには、地元企業の支援も欠かせません。発信力のある活動に積極的に関わりたいと考える企業も多いと思います。地域の発展に貢献しながら、企業もメリットを享受できるような仕組みが整うことで、さらに持続可能な支援が生まれるのではないかと感じました。

みらくる：子どもが大人になった時、どういうふうに生きていきたいか、感じていくか。その準備が小・中学生時代、勉強だけでは展望が開けないと思います。行きたい遊び場がいっぱいあるのはとても良いこと。みらくるで子どもたちの成長していくその先の姿を見せられたり、子ども自身で未来を思い描けたりするような関わり方や支援の仕方をしなければ、と思います。大人の姿勢が問われている。大人の良かれ、が子どもにいいわけじゃない、というのをこの場所で日々感じています。

※子梅連：青梅市内で子育て関連の活動をしている６つの NPO 団体の集まり。イベント「子どもふれあいフェスタ」を主催するほか、各団体の要望などもまとめて市へ提出することできちんと話をしやすくしている。

取材：沼倉智弓、高野多恵子